

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	2	学 校 名	静岡視覚特別支援学校	校 長 名	佐々木 雅則
------	---	-------	------------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
【育む】	○幼児児童生徒一人一人に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実。	○チーム研修を中心に、幼児児童生徒の日々のあられや事後研から授業や指導の改善につなげることができた。	・教職員 91% ・保護者 91%	A	・目標の達成状況や教職員の手立ての有効性について検討し、授業改善を行うことができた。今後は、幼児児童生徒と、教職員が、共に評価を通じて確かな学びや成長を実感することができるように、事後研修を中心とした授業改善を行っていく。一人1授業公開継続。
		○学年学部を超えた活動や他校との交流、外部講師の活用を通して多様な他者と学び合う場面を設定することができた。	・教職員 100% ・保護者 100%	A	・無理のない計画と事前の準備を行うことで、多様な他者と学び合う場面を設定することができた。今後も継続。
		○授業や日々の指導の中で個別のニーズに応じた情報機器の活用をすることができた。	・教職員 89%	B	・情報機器は、必要に応じて活用できている。今後は、情報モラルについて研修を行い、安全に活用できるようにしていく。
		○点字図書、拡大図書、電子書籍、触る絵本など視覚専門の図書を、幼児児童生徒が親しむ場面を設定したり、指導に活用したりすることができた。	・教職員 94%	A	・大学や関係機関と連携した図書の貸し借り等を行い、授業等で活用。今後は地域との連携を含めて検討。
	○教職員の専門性維持・継承。	○ニーズに応じた新任研修や学習会が企画・運営されることにより教職員の専門性が向上した。	・教職員 97%	A	・教職員のニーズに応じた研修会や学習会だけでなく、日々の取組においても気軽に相談し合う体制がとれた。今後は、相談体制の充実を図り、外部人材の活用する。
	○幼児児童生徒が自己の将来をデザインするキャリア教育推進。	○幼児児童生徒のキャリア形成を見据え、目標を立てたり振り返ったりすることができた。	・教職員 91%	A	・キャリア教育の手引きやキャリアパスポートを作成。幼児児童生徒が目標を振り返り、自分の今と将来について考えることができた。
		○面談の際にキャリア・パスポートを提示して検討することができた。	・教職員 66% ・保護者 100% (A50% B50%)	C	・保護者と共にキャリアパスポートを活用するところまでには至らなかった。次年度は、幼児児童生徒と保護者が成長を実感し、将来について考える機会を実施していく。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	○生涯にわたって健やかに生きるための健康づくりの推進。	○日々の生活や学習の中で食の話題を取り上げたり、授業に関連させたりしながら幼児児童生徒の食への興味関心を広げることができた。	・教職員 100% ・保護者 100%	A	・学校全体として食への興味関心が広がった。今後も継続。
【守る】	○幼児児童生徒の個性を尊重し、互いの良さを認め合うウェルビーイングの高い学校づくり。	○人権研修会や人権感覚チェックを実施し、人権感覚の向上を意識することができた。	・教職員 97% ・保護者 100%	A	・教職員へ定期的に実施。日頃の支援、指導を振り返り反省することができた。今後も実施し更なる教職員の人権感覚の向上を目指す。
		○人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通じて人権教育を行うことができた。	・教職員 94%	A	・各学部、寄宿舎において人権教育年間計画を作成。全校で実施。今後は活用について深めていく。
	○幼児児童生徒が安全で安心して生き生きと学習できる環境整備。	○緊急時の対応を把握し、教職員間で連携して適切に対応することができている。	・教職員 100%	A	・ヒヤリハット事例を学校全体で情報共有。安全に対する意識向上。今後も継続。
		○アイマスクや弱視レンズでのシミュレーションを通して校内環境について考え、整備や見直しをすることができた。	・教職員 100% ・保護者 100%	A	・環境を整えたり情報や指導方法を共有したりしながら安全な学習環境保持。連携した取組を今後も継続。
		○避難訓練や防災研修を通して、発災時における自身の役割を理解し、行動できた。	・教職員 100%	A	・危機管理マニュアルの見直しと次年度案作成。今後の研修や訓練での活用を検討。
	【つながる】	○超早期から成人まで切れ目のない連携支援体制の充実。	○関係機関と連携し相談者のニーズに応じた支援活動ができた。	・教職員 91%	A
○視覚障害教育の理解推進に向けて関係機関への訪問や地域への情報発信ができた			・教職員 94%	A	・つながりを大切にした、情報発信。今後も継続。
○幼児児童生徒や保護者が支援に係る関係機関とその役割が分かり、適切につながっている。			・教職員 97%	A	・高等部を中心とした、居住地の主な関係機関との支援会議の実施。地域福祉とのつながりができた。今後も継続。
○チームで業務に取り組む効果的で心理的安全性の高い環境の維持向上。		○同僚や保護者、関係機関などの個性や立場の違いを認め合い、尊重したかわりができた。	・教職員 100%	A	・誰もが同じ目線で話ができたり、相談や意見交換がしやすかったりした。今後も継続。
		○会議や業務を計画的に進めたり、ノー会議デイを活用したりすることで、授業や指導に関わる業務の時間を確保することができた。	・教職員 91%	A	年間計画で、成績処理日やノー会議日を設定し、周知。授業や指導業務に関わる時間を確保することができた。書類の書き方、日程などについては、全体周知が必要。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	○地域や家庭、関係機関との連携・協働体制による地域ぐるみの教育の推進。	○地域資源を活用して幼児児童生徒の経験をひろげたり、学びを深めたりすることができた。	・教職員 100%	A	・様々な場面での近隣の資源の活用。今後は学んだことを生かして居住地域でも生活経験を広げていけるように家庭と連携していく。
		○地域の人材を活用して研修し、教職員としての資質向上に繋げることができた。	・教職員 91%	A	・地域を活用した学習を設定することができた。今後も学校運営協議会委員や地域の方などから情報収集をしながら活動を広げていきたい。
		○幼児児童生徒や保護者のニーズを把握し、必要とする進路や支援の情報を提供することができた。	・教職員 94%	A	・保護者のニーズに合わせた情報提供を行った。担当が中心となって行っていたので、学校として対応できるようにしていきたい。
		○よりよい教育の在り方や地域のニーズについて学校運営協議会委員や静岡南部特別支援学校と共有し実現に向けて協働することができた。	・教職員 100%	A	・学校間で互いの良さや知る機会の実施。関係者が互いを尊重することができた。今後も継続。
	○新校開校を見据えた視覚障害教育の持続と包括的な共生を意識した学校づくり。	○新校のより良い学校環境づくりについて県教委や静岡北特別支援学校等と協働するとともに教職員が知的障害教育等について理解を深めることができた。	・教職員 89%	B	・「どうする、新校」プロジェクトとして、教職員が新しい学校について自分事として捉えた意見を出すことができた。県教育委員会からの情報提供を確実に行之共通理解を図っていく。